

# ラット・マウス自動血圧計

## BP-98A-L

拡張型保温器を標準で装備

**見やすい液晶表示 & プリンター・時計を内臓**  
**精悍なブラックBP-98A-Lにフルモデルチェンジ**  
 パーソナルな実験動物用ラット・マウス非観血式自動血圧測定装置



プリンター出力

本体表示画面

- ★ 本体液晶パネル採用で安心の脈波表示（マウスキットの追加で、マウスも測定可能）
- ★ プリンター&時計を内臓、USB接続、通信ソフト付属、1つのボタンで簡単操作
- ★ 保温筒の増設が可能になって3匹までの拡張とオプションの特大保温筒が使用可能
- ★ ラット・マウスをポケットに入れて、ストレスの少ない状態での保温、測定

### BP-98A-L本体仕様

- |                 |                         |                |                 |
|-----------------|-------------------------|----------------|-----------------|
| ●方式：Tail-Cuff法  | ●血圧測定範囲：350mmHgまで       | ●心拍数：1000BPMまで | ●最高血圧：光電容積脈波出現時 |
| ●最低血圧：計算式による    | ●平均血圧：脈波振動パターンによる       | ●外部入出力：USB     | ●感熱記録式プリンター     |
| ●電源：AC100V 1.5W | ●寸法：236(W)×236(D)×80(H) | ●重量：3Kg        |                 |

### BP-98A-LラットAセット内容（標準サイズラットの測定用）

998,000円（税別）

- |                 |                                     |              |        |        |
|-----------------|-------------------------------------|--------------|--------|--------|
| ●血圧計本体          | ●ラットカフブロープM（尾の径9-12 <sup>mm</sup> ） | ●保温器（THC-31） | ●マニュアル | ●測定台   |
| ●ラットネット（大、中 各1） | ●ラットポケット（大、中、小 各1）                  | ●標準保温筒TC-60  | ●通信ソフト | ●プリンター |

### オプション

- |         |                 |               |
|---------|-----------------|---------------|
| ●マウスキット | ●ラットカフブロープ（大、小） | ●特大保温筒（TC-75） |
|---------|-----------------|---------------|

株式会社 シナノ製作所

〒113-0033 東京都文京区本郷1-12-9

電話：03-3814-8538

FAX：03-3811-5326

mail:shinano@sepia.ocn.ne.jp

## 血圧計 Q & A

### ★人に、動物に優しい血圧の測定とは

動物にかかるストレスを最小限にして、麻酔をかけたり、カニューレーション等の手術を必要としません。だから簡単にだれでも測れる、繰り返し測定ができる。

### ★非観血式血圧計とはどのようなものですか

家庭用の自動血圧計と同様の原理で、カニューレーションのように1拍ごとの最高、最低血圧を測定するのではなく、複数の心拍より血圧を測定します。通常、1個体を3～5回測定してその平均値をその個体のその時点の血圧として評価します。即効性の薬物や、短時間の血圧の変化を見る場合にはあまり適していません。

### ★どの様にして測定するのですか

ラットポケットと言うオリジナル布製の袋と、円筒状の保温器でラットをやさしく保体、保温しながらセンサーを尾にセットし、尾動脈に十分な血流が流れるのを待ちます。全身加温ではなく、尾が外気に出た状態で保温するため、ラットの体温調節機能によって徐々に尾動脈の血流が増加してきます。血流量が充分になって血管内が体内動脈圧と同じ圧になるのを待って測定します。

### ★測定するのにどれくらいの時間がかかりますか

室温や個体差によっても異なりますが、保温器設定39度、室温24度で体重250g位のラットであれば、保体してから最初の測定結果ができるまで5分前後です。測定を3回してもプラス1～2分で終了します。測定可能な状態（尾動脈に十分な血流がある）であれば、測定に要する時間は10～15秒程度です。短時間にたくさんの測定が必要な場合は保温筒(TC-60)を追加して測定効率を約3倍までアップできます。

### ★麻酔下でも測定ができますか

麻酔下で測定するには、無麻酔で測定した後、麻酔をかけ体温が下がらないように保温マット等を利用して測定します。麻酔の深度や、麻酔剤により2～3割程度血圧の降下が見られます。

### ★マウスも測定できますか

マウスの測定は、マウスキットを用い本体表示またはパソコン画面にて脈波をモニターし、体動その他のノイズの影響を受けていないことを確認しながら測定します。

### ★どんな動物が測定できますか

ラット・マウス、カフプロブの取付が可能な尾を持った動物なら測定できます。センサーの構造上、尾の付け根のセンサーをセットする部位にマーキングのペイントや、毛がはえていたりする場合は感度が落ちますので、マーキングをずらすか、剃毛が必要な場合もあります。（マーモットや砂ネズミ等）

### ★通信ソフトウェアはついてますか

標準で添付されています。ソフトウェアで測定時に動物番号等を設定してあれば、いつ測定した動物のデータかが一目瞭然。測定時の脈波の保存もできるので、後で数値の信頼性の確認ができます。また、測定結果をテキストファイルに出力して他のアプリケーションで読み込み、計算やグラフ化が簡単にできるようになります。

(通信ソフトを使用するためにWindowsの動作するパソコンが必要になります)

※1：手術をして血管内にカテーテルや圧力センサーを挿入して血液の圧力を直接で測定する方式。